

キャプディール加温器

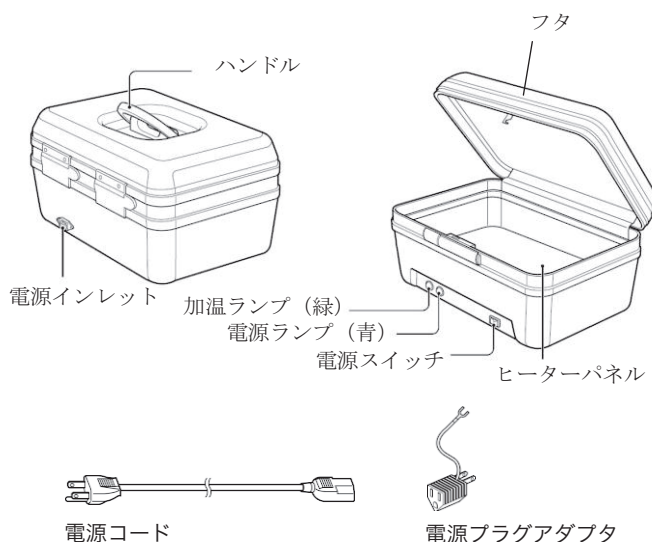
【警 告】

<使用方法>

水濡れや極端な温度条件下での使用、及び急激な温度変化を避け使用すること。使用中、本品内に腹膜透析液バッグの液が漏れた場合は、必ず電源を切り、直ちに電源プラグをコンセントから抜くこと。[液がヒーター回路内に浸入し、漏電・ショートする可能性がある。]

*【形状・構造及び原理等】

<構造図>



構成内容

構 成 部 品	数 量
バッグ加温器	1台
電源コード	1本
電源プラグアダプタ	1個

【作動原理】

本品はカーボンヒーターに電流を流して発熱させ、温度センサーでヒーター温度を感知して、ヒーターに加わる電圧を電子制御することにより一定温度に保つ腹膜透析液バッグ用の加温器であり、その動作原理は既知のものである。

【電氣的定格】

定格電圧：AC100V～

周波数：50～60Hz

消費電力：65W

*【機器の分類】

電撃に対する保護の形式による分類：クラスⅠ機器

電撃に対する保護の程度による装着部の分類：B形装着部

【仕様に係る事項】

使用環境温度：5～35℃

【使用目的又は効果】

<使用目的>

本品は連続携帯式腹膜灌流（CAPD）液バッグ用の加温器であり、腹膜透析液バッグを体温程度に加温・維持するために用いる。

【使用方法等】

1. 包材に入ったままの状態、腹膜透析液バッグの液漏れや、その他異常のないことを確認する。
2. 本品のフタを開けて、ヒーターパネルが床面に対し水平になるように置く。
3. 包材に入ったままの状態、腹膜透析液バッグの印刷面をヒーター側に向けて置く。
4. さらに先に入れた腹膜透析液バッグの上に重ねて包材に入ったままのバッグを置き、本品のフタを閉じる。
5. 電源スイッチが「切」であることを確認し、付属の電源コードを本体電源インレット及びコンセントに接続する。
6. 電源スイッチを「入」にする。（通電すると電源ランプ（青）及び加温ランプ（緑）が点灯する。）
7. 腹膜透析液バッグが使用の適温（約36℃）になるまで待つ。バッグをセットして4時間で適温になる。
8. 腹膜透析液バッグを取り出すときは、ヒーターパネルに接している下のバッグから取り出し、新しいバッグをその上に1バッグ追加する。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

1. 腹膜透析液の包材は、使用するまで絶対に開封しないこと。
2. 腹膜透析液バッグの印刷面を、ヒーターパネル側に向けて置くこと。[印刷なし面をヒーターパネル側に向けて置くと、使用温度到達時間内に適温にならない。]
3. 本品のフタを閉じるとき、手や指、バッグやバッグの包材をはさまないように注意すること。[怪我をしたり、バッグや包材を傷つけることがある。]
4. 腹膜透析液バッグを2バッグを超えて入れないこと。
5. 本品及びコンセントへ電源コードを接続する際は、接続部分が濡れていないことを確認すること。また、電源コードが傷んだり、破損している場合は使用しないこと。[火災や感電、ショートの可能性がある。]
6. 本品の電源を入れたとき、電源ランプ（青）と加温ランプ（緑）が共に点灯することを確認すること。[ランプが点灯しない場合は、電気回路の故障等により、腹膜透析液バッグが加温されない可能性がある。]
7. 加温中に加温ランプ（緑）が消灯した場合は、腹膜透析液バッグがヒーターパネルに接しているか確認すること。[腹膜透析液バッグが加温されず、腹膜透析液が適温にならない可能性がある。]
8. フタが閉じられていることを確認し、加温を開始すること。[腹膜透析液が適温にならない可能性がある。]
9. ヒーターパネルに接している一番下の腹膜透析液を使用すること。[ヒーターパネルに接していない腹膜透析液は適温にならない。]
10. 手で触るなどして腹膜透析液が適温になっていることを確認し使用すること。

***【使用上の注意】**

*** <重要な基本的注意>**

1. 引火性のある環境では使用しないこと。[引火又は爆発の誘因となる可能性がある。]
2. 本品は屋内専用である。屋外での使用は避けること。
3. 使用中は本品を動かさないこと。
4. コンセントが接地付きでない場合は、付属の電源プラグアダプタを電源コードに接続し、アース線をアース端子に接続すること。接地付きコンセントでない場合は、アース線は電気機器（例：電気洗濯機）で使用しているアース端子に接続すること。アース端子がない場合は、電気工事店に問い合わせの上、必ず設置工事を行うこと。
5. 付属の電源コードを使用すること。また、付属の電源コードを他の機器に使用しないこと。
6. 本品は交流電源（AC100V）に接続し使用すること。
7. 本品に落下等の衝撃が加わった場合は、使用しないこと。[本品の外観に異常が認められない場合でも内部が破損している可能性があるため、点検確認が必要である。]
8. 本品にはテルモ社以外の腹膜透析液バッグを使用しないこと。[本品が有する機能や性能が得られない可能性がある。]
9. 以下の内容について確認の上、患者に指導すること。
 - (1) 本品に異物や液体が入らないように注意すること。[故障の原因となる。]
 - (2) 本品で所定の時間加温した腹膜透析液バッグの液温が、高すぎたり低すぎると感じられる場合は、必ず本品の電源を切り、直ちに電源プラグをコンセントから抜き、弊社担当者に連絡の上、点検・修理を依頼すること。
 - (3) 異常を発見した場合は、必ず本品の電源を切り、直ちに電源プラグをコンセントから抜き、弊社担当者に連絡の上、点検・修理を依頼すること。
 - (4) 本品周辺で、高周波を発生する機器（携帯電話、無線機器、電子レンジ等）を使用した場合は、誤作動が生じることがあるので、できるだけ離れた位置で使用すること。また、これらの機器とは別系統の電源を使用し、確実に接地して使用すること。

***【保管方法及び有効期間等】**

*** <保管方法>**

水のかからない水平で安定な場所に保管し、高温多湿を避け、強い振動や衝撃を与えないこと。

***【保管上の注意】**

長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いておくこと。

<耐用期間・使用期間>

指定の保守、点検を実施した場合の耐用期間：5年（自己認証による）

【保守・点検に係る事項】

安全に使用するために定期的に保守点検を実施すること。各点検で異常が認められた場合は、直ちに使用を中止し、弊社担当者まで連絡すること。

【保守・点検上の注意】

1. 清掃するときは、必ず本品の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜くこと。
2. 本品が汚れた場合は、水又はぬるま湯に浸してかたくしぼったガーゼ等で速やかに拭き取ること。また、アルコール、シンナー、ベンジン等の有機溶剤は使用しないこと。
3. ドライヤー等を使用して乾燥させないこと。

【使用者による保守点検事項】

点検項目	点検頻度	点検内容
外 観	毎 回	1.落下等による著しい傷がないこと。 2.電源コードが傷んでいたり、破損がないこと。
電源投入時	毎 回	1.電源コードの接続が確実であること。 2.アースが確実に接続されていること。 3.電源ランプ（青）及び加温ランプ（緑）が点灯すること。

※詳細については取扱説明書の保守点検の項を参照すること。

****【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】**

製造販売業者：テルモ株式会社

電 話 番 号：0120-29-0941 テルモ・コールセンター

** 製 造 業 者：RYOYU株式会社

